



社会人講師派遣

社会人講師派遣とは

企業人等を講師として学校に派遣し、**職業や産業の実態、働くことの意義、職業生活等**に関して生徒に理解させることを目的とした活動です。

社会人講師派遣の意義

私たち企業人には、**自らが経験した職業、職種、仕事の内容に関する知識**があります。次代を担う子供たちを社会全体で育成すると言う観点に立ち、学校から講義等の依頼があれば積極的に協力が求められています。また、**企業人の講演は子供たちだけでなく、教員や保護者にとっても、職業の実際やその変化等を聞く絶好の機会**になります。

事前・当日の流れ

通例、学校から各企業に社会人派遣の依頼があります。

(地域の経済団体等から企業に依頼する場合があります)

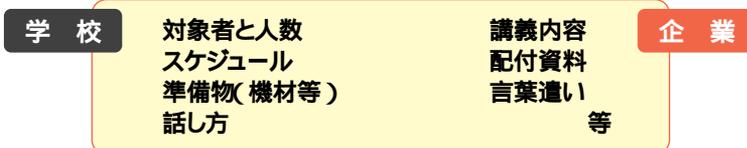


企業から、学校に受入れ承諾の連絡と日程調整をします。

(合わせて、どのようなテーマで話すかを確認します。)



学校と企業との間できちんと意識合わせをして下さい。



講演会当日

学校や児童・生徒から礼状や感謝状が送られてくる場合があります。
ぜひ社内で回覧するなど、会社全体で情報を共有して下さい。

事前準備の留意点

テーマ選定

実際に、講師自身が適当だと考えるテーマと、教育現場が求めているものが違うことが多々あります。このようなことを防ぐために、話すテーマ・内容等については、担当の教師と確認する必要があります。また、同じテーマであっても、小・中・高等学校では話す内容を考慮する必要があります。

「環境問題」をテーマにした場合の内容例

▶ 小学校

冬の温度が年々高くなっているなどの環境変化や、家庭でのリサイクル、省エネルギーなど身近なことから、周辺地域、そして地球全体にまで、順に話を広げるなどの工夫が必要。

▶ 中学校

日本だけでなく、世界各地の情勢などにも言及し、自分たちの周りだけを考えるのではなく、地球全体の問題として捉えるような説明をする。

▶ 高等学校

京都議定書、CO₂排出量など専門的な用語や最新のデータ等も入れ、これから私たちがどうすべきかなどの問題提起するのも良い。

準備物・資料

各教室には、プロジェクター・スクリーン等をはじめ、パソコン等も常備されていない場合があります。使用する設備は必ず学校側に事前に連絡してください。また、演台の位置や会場の形式(例えばグループ形式で実施する等)についても、事前に調整します。

資料作成の留意点

分量

小学生向けには、できるだけ枚数を少なくしてください。中・高校生の場合は、授業時間内できちんと収まるよう事前に時間配分を考慮する必要があります。

仕様

小・中・高校にかかわらず、文字だけでなく、写真・図・イラスト等を使うとより分かりやすくなります。

抽象的な表現は児童・生徒には理解しがたいものです。できるだけ、具体的な事例や最新のデータなども盛り込むのも効果的です。

単語

特に小学生の場合、使用する漢字に留意する必要があります。習っていない漢字は使用しないか、ルビを振るようしてください。

報酬等

通例、無償で実施する場合がありますが、念のため確認して下さい。交通費等も同様です。

話し方

「うまく話をしよう」と考えず、仕事人でなければ話せない実体験談を話してください。生徒は教師の話を目撃しており、同じような話をしても誰も耳を傾けません。

留意点

- ▶ ゆっくりと大きな声で話をする
- ▶ 教壇に立っているときの目線は、教室全体を見渡すようにする。また、小学生に質問する際は、児童の近くに行き、視線を低くし、目線を合わせるようにする
- ▶ 適宜質問等を入れながら、一方的な講義にならないようにする
- ▶ 質問する際は、
 - 《小学生》正答が返ってこない場合でも、ヒントを与えながら誘導する
 - 《中学生》積極的に応答する生徒が極端に少なくなるため、授業の雰囲気にあわせ質問等を行う
 - 《高校生》正答でなくとも、生徒の答えを尊重しながらすすめる等の配慮が必要です。

言葉遣い

対象の生徒にあわせて、どのような言葉で話すのかを確認する必要があります。例えば、私たちにとって当たり前の「企画」「営業」という言葉ですら小学生には理解しづらいです。子供の側に立って考えることが必要になります。

小学生に話す時には、例えば、「企画」...計画をたてること 「営業」...物をお客様に売る仕事 と説明してください。

服装

生徒は、教師にない何かを社会人講師に求めます。そのため、ユニホーム等があるなら、背広でなしにそれを身に付けることをお勧めします。社会人としての服装に変えるだけで、現場の体験者・実務者というイメージを与えることができ、児童・生徒たちもスムーズに講師を受け入れる場合があります。

不適切な用語

中学生以上については、特に専門的な用語でなければそのまま使用しても理解できますが、口頭で注釈をつけるほうが良い場合もあります。また、注意すべき言葉遣いや内容(例えば保護者の職業に関する質問などプライベートな事柄等)などがありますので、事前に教師に確認して下さい。また、セクハラになるような性差別的な発言も避けてください。